

令和7年用さといも・アスパラガス病害虫防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行：J A さがえ西村山
さがえ西村山野菜振興協議会

さといも

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法〔収穫前使用日数/使用回数〕	注 意 事 項	
植えつけ前	乾腐病	8F	本畑の土壌消毒。 バスアミド微粒剤 [㊟] 10a 当たり30kg〔植付21日前まで/1回〕を均一に散布して土壌混和する。		
植えつけ時	アブラムシ類	4A	アトマイヤー1粒剤を10a 当たり4kg〔植付時/1回〕植溝土壌混和する。		
生育期	コガネムシ類幼虫	1A	オンコル粒剤5 10a 当たり9kg〔60日前まで/1回〕土寄せ時に株元土壌混和する。	1. 合成ピレスロイド剤(トレボン乳剤、アディオオン乳剤)は、蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。また、抵抗性害虫出現防止のため同一ほ場での総使用回数は2回以内とする。 2. トレボン乳剤は、葉柄を収穫する場合、収穫7日前までとする。 3. アディオオン乳剤は、葉柄を収穫する場合(ずいきなど)、使用回数は2回以内とする。 4. オンコル粒剤5、ウララDF、プレオフロアブル、マイトコーネフロアブル、フェニックス顆粒水和剤、ディアナSCは葉柄を収穫する場合(ずいきなど)は使用しない。	
	ハスモンヨトウ	3A 28	トレボン乳剤 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔14日前まで/3回以内〕 フェニックス顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕		のいずれかを発生初期に10a 当たり100~300ℓ 散布する。
	スズメガ類	5 UN	ディアナSC 2,500倍 (4ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 プレオフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔7日前まで/2回以内〕		のいずれかを発生初期に10a 当たり100~300ℓ 散布する。
	アブラムシ類	3A 29	アディオオン乳剤 3,000倍 (3.3ml/10ℓ)〔7日前まで/5回以内〕 ウララDF 2,000倍 (5g/10ℓ)〔7日前まで/2回以内〕		のいずれかを10a 当たり100~300ℓ 散布する。
	ハダニ類	20D	マイトコーネフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔3日前まで/1回〕を10a 当たり100~300ℓ 散布する。		
	カンザワハダニ	13	コテツフロアブル [㊟] 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔7日前まで/2回以内〕を10a 当たり100~300ℓ 散布する。		1. コテツフロアブル [㊟] は、ハスモンヨトウにも登録がある。 2. コテツフロアブル [㊟] は、葉柄を収穫する場合、収穫3日前までとする。

除草剤使用基準(葉柄収穫の場合は基準が異なる)

	薬 剤 名	RAC	10 a 当り薬量/散布量	使 用 時 期	使用方法	使用回数	適用雑草	特 性	
土 壌 処 理 剤	種芋もしくは は苗植付後	トレファノサイド乳剤	300~400ml/100ℓ	植付後(但し植付7日後まで)	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ツククサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。	
		トレファノサイド粒剤2.5							4~6kg
	種芋植付後	ゴーゴーサン細粒剤F	3	4~6kg	植付後萌芽前(雑草発生前)	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ツククサ、キク科雑草には効果が劣る。
		ゴーゴーサン乳剤		200~400ml/70~100ℓ	植付後萌芽前(雑草発生前)	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ツククサ、キク科雑草には効果が劣る。
茎 葉 処 理 剤	バスタ液剤	10	300~500ml/100~150ℓ	雑草生育期: 植付前又は畦間処理(収穫30日前まで)	雑草茎葉散布	3回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い。	
	ナブ乳剤	1	150~200ml/100~150ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(収穫30日前まで)	雑草茎葉散布	1 回	一年生イネ科雑草	・遅効性で枯死するまで7~10日必要。 ・スズメノカタビラには効果がない。	

【葉柄を収穫する場合】トレファノサイド粒剤2.5 植付後(マルチ前)(但し植付7日後まで)
バスタ液剤 雑草生育期: 植付前又は畦間処理(収穫7日前まで)

農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

成 分 名	農 薬 名	RAC	使用回数	同一成分総使用回数	成 分 名	農 薬 名	RAC	使用回数	同一成分総使用回数
トリフルラリン	トレファノサイド乳剤	3	1回	1 回	ベンディメタリン	ゴーゴーサン細粒剤F	3	1回	2回以内 (但し、土寄せ後の 処理は1回以内)
	トレファノサイド粒剤2.5		1回			ゴーゴーサン乳剤		1回	

アスパラガス

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法〔収穫前使用日数/使用回数〕	注 意 事 項	
生育期	立 枯 病	3	トリフミン水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔7日前まで/1回〕を1㎡当たり3ℓ かん注処理する。	1. EBI剤(トリフミン水和剤、ラリー水和剤)は、耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。 2. アミスター20フロアブルは、展着剤の種類によって薬害の恐れがあるので加用しない。また、りんごに薬害を生じるため飛散しないように注意する。 3. アミスター20フロアブルは、耐性菌出現防止のため、連用は避け、総使用回数は2回以内とする。 4. 茎枯病、斑点病には、Zボルドー500倍(20g/10ℓ)〔-/-〕を使用してもよい。 5. Zボルドーは、水稲(穂ばらみ期~出穂期)に薬害が出るので飛散しないように注意する。 6. 春どり栽培では、収穫打切り直後穂先が開かない時から散布を開始し、梅雨期間中の防除を徹底する。 7. 枯死茎葉は刈り取り、ほ場に残さず適切に処分する。	
	斑 点 病	3	ラリー水和剤 4,000倍 (2.5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕を10a 当たり150~300ℓ 散布する。		
	茎 斑 点 病 病 斑	M1	コサイド3000 2,000倍 (5g/10ℓ)〔-/-〕		のいずれかを10a 当たり100~300ℓ 散布する。
		M5	ダコニール1000 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕		
		M7	ベルコート水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔7日前まで/5回以内〕		
		11	アミスター20フロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕		
	茎 枯 病	M1	クプロシールド 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔-/-〕を10a 当たり100~400ℓ 散布する。		のいずれかを10a 当たり100~300ℓ 散布する。
		1	ベンレート水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕		
		2	ロブラール水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕		
		7	アフエツフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕		
	ネギアザミウマ (アザミウマ類)	5	ディアナSC 2,500倍 (4ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕を10a 当たり100~500ℓ 散布する。		1. ディアナSCは、アザミウマ類として登録があるほか、コナジラミ類、ハスモンヨトウ、オオタバコガにも登録がある。
		34	ファインセーブフロアブル [㊟] 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕を10a 当たり100~800ℓ 散布する。		
	カメムシ類	4A	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕を10a 当たり100~800ℓ 散布する。		1. スタークル顆粒水溶剤は、アザミウマ類にも登録がある。
	ジュウシホシクビナガムシ アブラムシ類	3A	アディオオン乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕		のいずれかを10a 当たり100~300ℓ 散布する。
4A		モスピラン顆粒水溶剤 [㊟] 4,000倍 (2.5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕			
ハスモンヨトウ (オオタバコガ)	UN	プレオフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕	のいずれかを10a 当たり100~300ℓ 散布する。		
	28	フェニックス顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕			
	30	グレーシア乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕を10a 当たり100~500ℓ 散布する。			

除草剤使用基準 ※センコル水和剤は使用方法が変わったので、特性をよく読んで使用する。

	薬 剤 名	RAC	10 a 当り薬量/散布量	使 用 時 期	使用方法	使用回数	適用雑草	特 性
土 壌 処 理 剤	クレマート乳剤	3	200~400ml/100~150ℓ	萌芽前(雑草発生前)	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ガス化しないので、ハウス栽培、マルチ栽培で使用できる。
	トレファノサイド乳剤	3	200~300ml/100ℓ	萌芽前または収穫打切後(雑草発生前)	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ツククサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。 ・トンネル・ハウス栽培ではガス化による薬害による恐れがあるので使用しない。
理 剤	ロロックス	5	150~200g/70~150ℓ	萌芽前(雑草発生前~発生始期)	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・広葉雑草に効果が高い。 ・砂質土壌では使用しない。
	センコル水和剤	5	100~150g/100ℓ	萌芽前~萌芽始期または収穫打切後(雑草発生前~4.5葉期)	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・促成栽培の場合は株掘り取り終了後のみの使用とする。 ・擬葉にかかる葉先枯などの薬害を生じるので注意する。
茎 葉 処 理 剤	ナブ乳剤	1	150~200ml/100~150ℓ	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期)(収穫前日まで)	雑草茎葉散布 又は全面散布	1 回	一年生イネ科雑草	・遅効性で枯死するまで7~10日必要。 ・スズメノカタビラには効果がない。
	バスタ液剤	10	300~500ml/100~150ℓ	雑草生育期: 萌芽前または畦間処理(収穫前日まで)	雑草茎葉散布	2回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い。 ・散布後6時間以内の降雨で効果が低下するので注意する。
	ザクサ液剤	10	300~500ml/100~150ℓ	雑草生育期: 萌芽前または畦間処理(収穫前日まで)	雑草茎葉散布	2回以内	一年生雑草	・非選択性
	ラウンドアップ マックスロード	9	200~500ml/50~100ℓ	雑草生育期(耕起前まで)	雑草茎葉散布	1 回	一年生雑草	・少量散布の場合は10a 当たりの散布量を25~50ℓ とする。 ・吸収移行型除草剤 ・茎葉刈り取り後、越冬雑草に処理しておく効果が高い。
1,500~2,000ml/50~100ℓ			雑草生育期: 畦間処理(収穫前日まで)	雑草茎葉散布	2回以内	スギナ		

成 分 名	農 薬 名	使 用 回 数	同一成分総使用回数
グルホシネート及び グルホシネートPナトリウム塩	バスタ液剤	2回以内	2回以内
	ザクサ液剤	2回以内	